

# 第5回 ひょうごユースecoフォーラム

H Y O G O Y O U T H E C O F O R U M

## 開催報告書

日時 令和5年12月23日(Sat)11:00~16:30 / 会場 デザイン・クリエイティブセンター神戸 (KIITO)

主催 兵庫県・公益財団法人ひょうご環境創造協会 / 協力 兵庫県立人と自然の博物館/兵庫県立淡路景観園芸学校

県立豊岡高等学校

黒田裕斗

この絵は、身近な自然とその景色の『今』を見つめることと、写真のように色褪せることなく残し続けたいという思いを、SDGsを表した木と共に表現。



# 目 的

## *Objective*

若者世代による環境活動の活性化を通して将来社会の担い手を育成するため、大学生・大学院生の5名の学生企画委員の企画・運営等への参画のもと「第5回ひょうごユースecoフォーラム」を開催しました。本フォーラムが、ご参加いただいた皆さまの活動活性化に寄与するとともに、将来世代に“恵み豊かなふるさとひょうご”をつないでいく契機となることを期待します。

## C O o r d i n a t o r



県立人と自然の博物館館長 中瀬 勲

## 開会あいさつ

最近よく聞かれる言葉で、温暖化防止、生物多様性、ESG投資。このESGとは環境（Environment）・社会（Social）・ガバナンス（Governance）の略で民間企業も企業責任として環境に配慮した取り組みをしなければならない。温暖化防止や生物多様性のほか経済活動にも環境に配慮しようという流れになっている。また、30by30（サーティ・バイ・サーティ）とは、2030年までに生物多様性の損失を食い止め、回復させる（ネイチャーポジティブ）というゴールに向け、2030年までに陸と海の30%以上を健全な生態系として効果的に保全しようとする目標である。これらの達成を目指すため国立公園など地域、企業、団体によって生物多様性の保全が図られている土地をOECM（Other Effective area-based Conservation Measures）として国際データベースに登録し、その保全を促進している。最近では豊岡のコウノトリ郷公園や、尼崎21世紀の森公園が指定された。本日参加されている皆さんは現場で実践活動をしている方ばかりである。このフォーラムでお互いの活動について情報を交換し、若い人から高齢者までみなで環境活動をやっていこうという非常に大事なタイミングである。これを念頭においてみなさん今後も活動してもらいたい。



## 口頭発表1

楽しく学ぶ！環境アクションボードゲーム

近高ハナミヤ(近畿大学附属豊岡高等学校)

<https://youtu.be/NmMWfIhT4bc>  こちらをクリック



## 口頭発表2

環境適合型農業と農福連携、豊かな海づくり

一般社団法人スマートな島ぐらし推進協議会

<https://youtu.be/S9j29nnBjac>  こちらをクリック



## 口頭発表3

エフピコ方式の循環型リサイクルについて

株式会社エフピコ

<https://youtu.be/QawPRaMQnNY>  こちらをクリック



## 口頭発表4

明石川と共に生きる～明石川オリジナル図鑑～

玉ーアクアリウム

<https://youtu.be/vWfMdKUIYGI>  こちらをクリック



## 口頭発表5

特定外来生物クビアカツヤカミキリの分布拡大阻止へ  
～地域・企業・専門機関と連携した取組～

県立明石北高等学校 生物部

<https://youtu.be/KQzvHqbb8Ek>  こちらをクリック

# ポスターセッション



1  
兵庫医科大学  
エコチル調査  
兵庫ユニットセンター



2  
ひょうご環境体験館



3  
武庫川女子大学  
教育学部 酒井研究室



4  
ひょうご高校生  
環境・未来リーダー  
育成プロジェクト



5  
学校法人七松学園  
認定こども園七松幼稚園



6  
海と空の約束プロジェクト



# ポスターセッション



7  
NPO法人創エネ神戸



8  
NPO法人PVネット  
兵庫グローバルサービス



9  
近高ハナミヤ  
(近畿大学附属豊岡高等学校)



10  
株式会社日本海水  
赤穂工場



11  
一般社団法人スマートな  
島ぐらし推進協議会



12  
大和フォレストクラブ



# ポスターセッション



13  
NPO法人  
うず潮を世界遺産にする  
淡路島民の会



14  
近畿大学附属豊岡高等学校  
(リユース活動)



15  
近畿大学附属豊岡高等学校  
(生きもの活動)



16  
近畿大学附属豊岡高等学校  
(野菜づくり)



17  
県立農業高等学校  
生物工学科 YSO t



18  
県立農業高等学校  
発酵技術研究会



# ポスターセッション



19  
MixES (ミクシーズ)



22  
温暖化防止こうベネット



20  
株式会社エフピコ



23  
GWC Thinkers  
(兵庫県  
地球温暖化防止活動  
学生推進員)



21  
生活協同組合コープこうべ



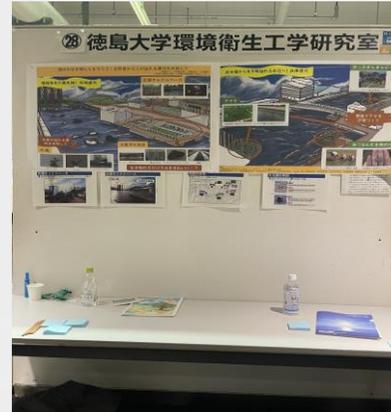
24  
地球環境と産業化研究会  
(SGEIS)



# ポスターセッション



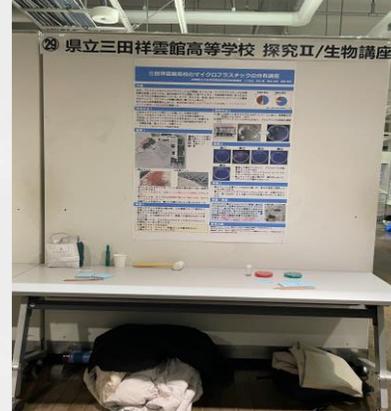
25  
グループめだか



28  
徳島大学  
環境衛生工学研究室



26  
一般社団法人  
いえしま自然体験協会



29  
県立三田祥雲館高等学校  
探究Ⅱ/生物講座  
(プラスチック班)



27  
NAMIMATI KANSAI



30  
玉ーアクアリウム



# ポスターセッション



31  
加古川の里・  
ギフチョウ・ネット



35  
専修学校森林大学校



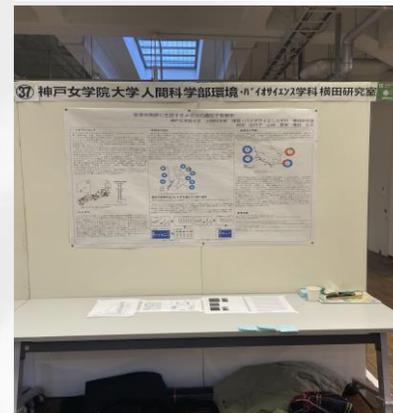
33  
神戸大学保全生態学研究会



36  
篠山環境みらいの会



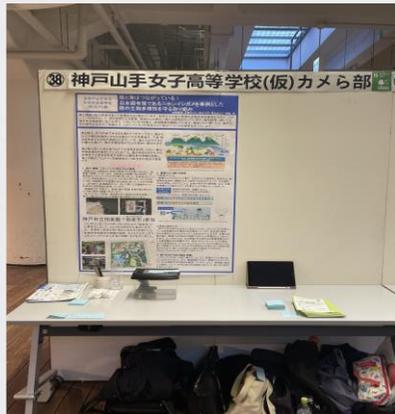
34  
県立篠山東雲高等学校  
自然科学部



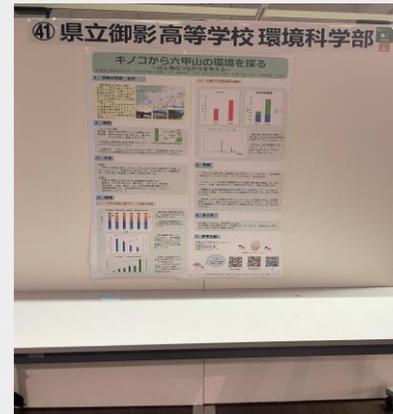
37  
神戸女学院大学人間科学部  
環境・バイオサイエンス学科  
横田研究室



# ポスターセッション



38  
神戸山手女子高等学校  
(仮) カメラ部



41  
県立御影高等学校  
環境科学部



39  
県立明石北高等学校



42  
ひょうご自然教室



40  
ひょうご環境保全連絡会



43  
NPO法人  
ひょうご森の倶楽部



# ポスターセッション



44  
西宮市立山口中学校  
モリアオガエル保存会



## ポスターセッションの様子

今回も学生企画委員の元気な司会からスタートし、団体番号偶数、奇数に分かれてポスターセッションを開催しました。

小中高生、大学生、そして、企業、団体による様々な年代の方が交流を行ない、活気ある意見交換ができました。

ともに拓くひょうごの環境 ～脱炭素、生物多様性、資源循環の社会を子ども達とつくるために～

“ひょうごの里山里海を守り育てるために” 自分たちに何ができるのかを、嶽山洋志コーディネーターの進行のもと、参加者全員が20班に分かれ話し合いを行ないました。

## C O o r d i n a t o r

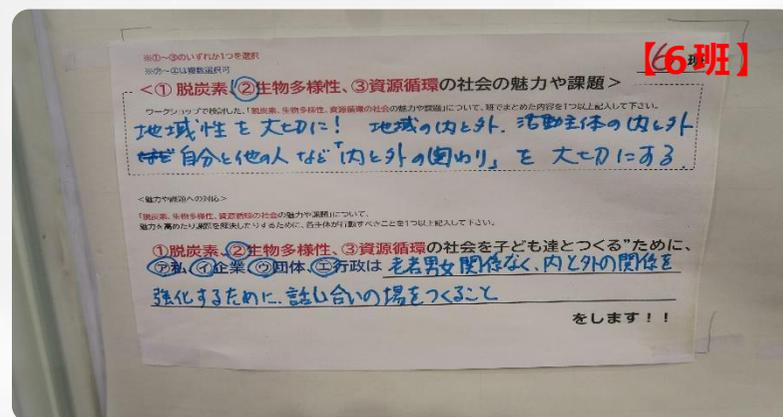
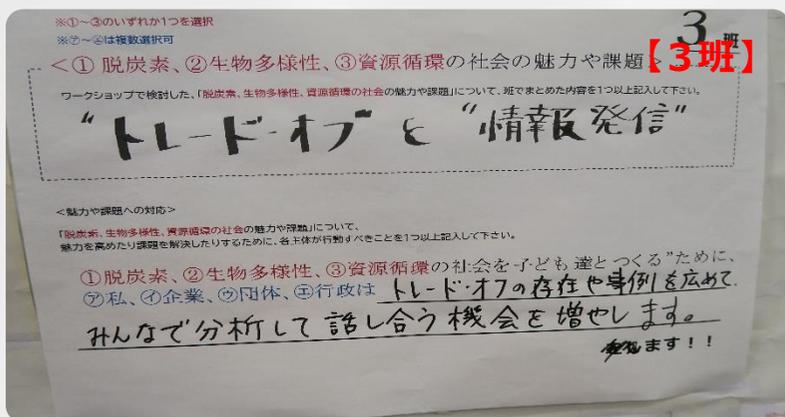
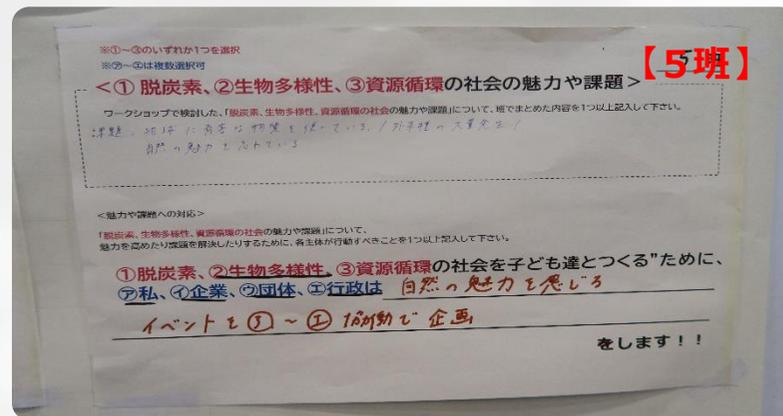
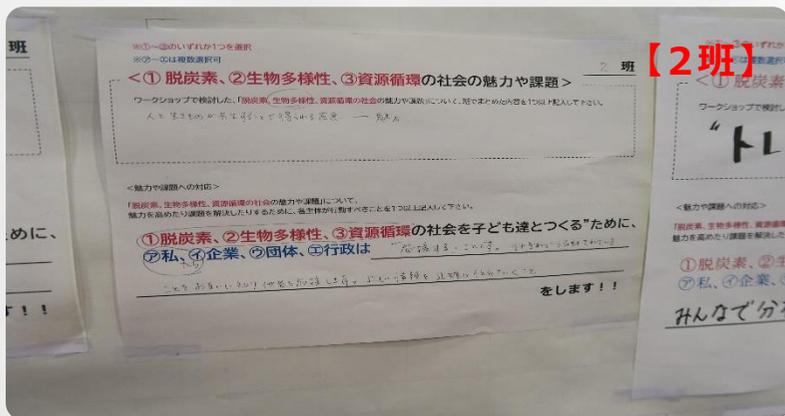
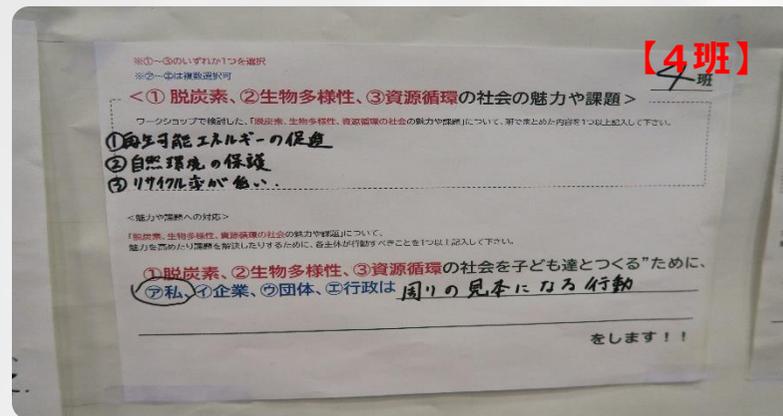
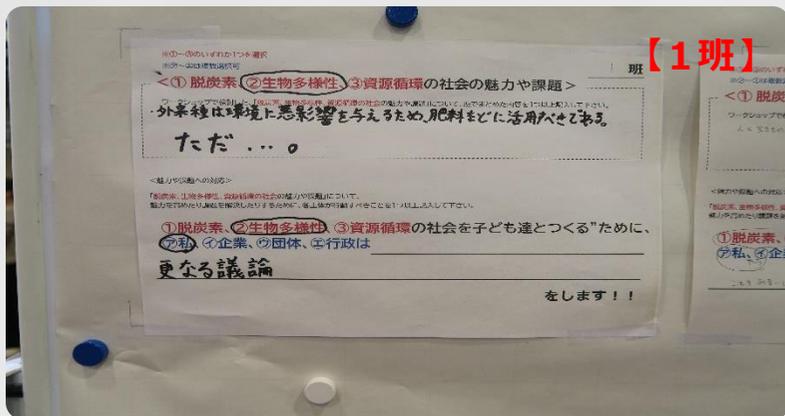


今年のテーマは「ひょうごの環境2023」からキーワードをとっている。脱炭素、自然共生、資源循環、安全・快適、特に地域力。口頭発表でも様々な団体との連携がアイデアを高めて、地域力が増すのではないか。このフォーラムの中でつながりができ、その連携によって出来るアイデアが出てくると良いと考える。昨年度は主体的な活動「私は何をしているか、していくか」ということをテーマに議論した。今年は自分の活動に加えて、行政や企業と組んだらどうなるか、多様な主体と共同すると面白いことができるのか。まとめて発信、議論するだけでなく、何らかの形で事業化していくことで応援できるといいなと考えている。本日の議論で終わるのではなく、今後につながる取組みを議論したい。

【グループディスカッションコーディネーター】

兵庫県立大学大学院 緑環境景観マネジメント研究科 准教授 嶽山 洋志

# 各班のまとめ用紙



# 各班のまとめ用紙

※①～③のいずれか1つを選択  
※②～③は複数選択可

【7班】

<① 脱炭素、② 生物多様性、③ 資源循環の社会の魅力や課題>

ワークショップで検討した、「脱炭素、生物多様性、資源循環の社会の魅力や課題」について、班でまとめた内容を1つ以上記入して下さい。

魅力: 自然豊かな土地、人々の生活には欠かせない自然  
課題: 人手不足、自然意識が低い、自然を壊す機会が多い

<魅力や課題への対応>

「脱炭素、生物多様性、資源循環の社会の魅力や課題」について、  
魅力を高めたり課題を解決したりするために、各主体が行動すべきことを1つ以上記入して下さい。

① 脱炭素、② 生物多様性、③ 資源循環の社会を子ども達とつくるために、  
② 私、④ 企業、⑤ 団体、⑥ 行政は 自然豊かな土地を体験の場として  
子ども達に提供すること  
をします!!

※①～③のいずれか1つを選択  
※②～③は複数選択可

【10班】

<① 脱炭素、② 生物多様性、③ 資源循環の社会の魅力や課題>

ワークショップで検討した、「脱炭素、生物多様性、資源循環の社会の魅力や課題」について、班でまとめた内容を1つ以上記入して下さい。

兵庫県には自然がまだまだある  
自然に関わることが出来る機会が少ない。

<魅力や課題への対応>

「脱炭素、生物多様性、資源循環の社会の魅力や課題」について、  
魅力を高めたり課題を解決したりするために、各主体が行動すべきことを1つ以上記入して下さい。

① 脱炭素、② 生物多様性、③ 資源循環の社会を子ども達とつくるために、  
② 私、④ 企業、⑤ 団体、⑥ 行政は 子ども達と自然体験ボランティア  
(3世代)をマッチングする取り組みを通じて、  
親世代を巻き込むこと  
をします!!

※①～③のいずれか1つを選択  
※②～③は複数選択可

【8班】

<① 脱炭素、② 生物多様性、③ 資源循環の社会の魅力や課題>

ワークショップで検討した、「脱炭素、生物多様性、資源循環の社会の魅力や課題」について、班でまとめた内容を1つ以上記入して下さい。

魅力: CO2削減 etc  
課題: きっかけづくり etc

<魅力や課題への対応>

「脱炭素、生物多様性、資源循環の社会の魅力や課題」について、  
魅力を高めたり課題を解決したりするために、各主体が行動すべきことを1つ以上記入して下さい。

① 脱炭素、② 生物多様性、③ 資源循環の社会を子ども達とつくるために、  
② 私、④ 企業、⑤ 団体、⑥ 行政は  
体験活動の場を提供するとともに、  
子ども達の興味を後押し  
をします!!

※①～③のいずれか1つを選択  
※②～③は複数選択可

【11班】

<① 脱炭素、② 生物多様性、③ 資源循環の社会の魅力や課題>

ワークショップで検討した、「脱炭素、生物多様性、資源循環の社会の魅力や課題」について、班でまとめた内容を1つ以上記入して下さい。

自然に興味がある人を増やす。若い世代へ伝えていく  
そのために、体験活動をたくさんする  
の機会と

<魅力や課題への対応>

「脱炭素、生物多様性、資源循環の社会の魅力や課題」について、  
魅力を高めたり課題を解決したりするために、各主体が行動すべきことを1つ以上記入して下さい。

① 脱炭素、② 生物多様性、③ 資源循環の社会を子ども達とつくるために、  
② 私、④ 企業、⑤ 団体、⑥ 行政は 若い世代へ伝えていくために、  
興味をもてるような楽しめる体験活動を増やしていくと  
色々な団体と  
をします!!

※①～③のいずれか1つを選択  
※②～③は複数選択可

【9班】

<① 脱炭素、② 生物多様性、③ 資源循環の社会の魅力や課題>

ワークショップで検討した、「脱炭素、生物多様性、資源循環の社会の魅力や課題」について、班でまとめた内容を1つ以上記入して下さい。

魅力: 生産活動の体験、美味しい食べ物、有用な木材等と消費でエコ。  
課題: 廃棄物や食べ物の木材等が多い。

<魅力や課題への対応>

「脱炭素、生物多様性、資源循環の社会の魅力や課題」について、  
魅力を高めたり課題を解決したりするために、各主体が行動すべきことを1つ以上記入して下さい。

① 脱炭素、② 生物多様性、③ 資源循環の社会を子ども達とつくるために、  
② 私、④ 企業、⑤ 団体、⑥ 行政は 廃棄物の削減に資する資源(野菜  
イリシ、シカ等)を購入、再利用  
をします!!

※①～③のいずれか1つを選択  
※②～③は複数選択可

【12班】

<① 脱炭素、② 生物多様性、③ 資源循環の社会の魅力や課題>

ワークショップで検討した、「脱炭素、生物多様性、資源循環の社会の魅力や課題」について、班でまとめた内容を1つ以上記入して下さい。

魅力: 身近に生き物がいる  
課題: 子供たちが楽しめる機会が少ない

<魅力や課題への対応>

「脱炭素、生物多様性、資源循環の社会の魅力や課題」について、  
魅力を高めたり課題を解決したりするために、各主体が行動すべきことを1つ以上記入して下さい。

① 脱炭素、② 生物多様性、③ 資源循環の社会を子ども達とつくるために、  
② 私、④ 企業、⑤ 団体、⑥ 行政は 各主体が中心となって身近な施設で  
体験活動の幼稚園や小学校に「出張動物園」を呼び出し、難しいことはなく、身近な  
可愛さを伝える動物園  
をします!!

# 各班のまとめ用紙

※①-③のいずれか1つを選択  
※④-⑥は複数選択可

**【13班】**

<①脱炭素、②生物多様性、③資源循環の社会の魅力や課題>

ワークショップで検討した、「脱炭素、生物多様性、資源循環の社会の魅力や課題」について、班でまとめた内容を1つ以上記入して下さい。

課題 ○ 正しく理解できていない。

魅力 ○ 面白い。

<魅力や課題への対応>

「脱炭素、生物多様性、資源循環の社会の魅力や課題」について、魅力を高めるたり課題を解決したりするために、各主体が行動すべきことを1つ以上記入して下さい。

①脱炭素、②生物多様性、③資源循環の社会を子ども達とつくる”ために、  
⑦私、⑧企業、⑨団体、⑩行政は グループ活動の交流

SNSを通して発信

をします！！

※①-③のいずれか1つを選択  
※④-⑥は複数選択可

**16班**  
**【16班】**

<①脱炭素、②生物多様性、③資源循環の社会の魅力や課題>

ワークショップで検討した、「脱炭素、生物多様性、資源循環の社会の魅力や課題」について、班でまとめた内容を1つ以上記入して下さい。

・生物多様性という言葉の意味を理解していないこと。  
身近なテーマで、できることから活動をはじめること(×9%)

<魅力や課題への対応>

「脱炭素、生物多様性、資源循環の社会の魅力や課題」について、魅力を高めるたり課題を解決したりするために、各主体が行動すべきことを1つ以上記入して下さい。

①脱炭素、②生物多様性、③資源循環の社会を子ども達とつくる”ために、  
⑦私、⑧企業、⑨団体、⑩行政は 出前授業をしたり、  
身近な生物と一緒に育て、池せりに放流するサポート

をします！！

※①-③のいずれか1つを選択  
※④-⑥は複数選択可

**【14班】**

<①脱炭素、②生物多様性、③資源循環の社会の魅力や課題>

ワークショップで検討した、「脱炭素、生物多様性、資源循環の社会の魅力や課題」について、班でまとめた内容を1つ以上記入して下さい。

おもしろいところ 自然がある。  
がだい：自然と子どもがふれあう機会が少ない  
個人的取り組みの具体策が中心 ない

<魅力や課題への対応>

「脱炭素、生物多様性、資源循環の社会の魅力や課題」について、魅力を高めるたり課題を解決したりするために、各主体が行動すべきことを1つ以上記入して下さい。

①脱炭素、②生物多様性、③資源循環の社会を子ども達とつくる”ために、  
⑦私、⑧企業、⑨団体、⑩行政は (お金の制) 3

1 子どもだけ、朝だけ、のキコフ、自然体験  
2 先生だけのPR 4 身体づくり  
3 行政、企業によるゴミ回収ポイント 3 導入

をします！！

※①-③のいずれか1つを選択  
※④-⑥は複数選択可

**【17班】**

<①脱炭素、②生物多様性、③資源循環の社会の魅力や課題>

ワークショップで検討した、「脱炭素、生物多様性、資源循環の社会の魅力や課題」について、班でまとめた内容を1つ以上記入して下さい。

自然から学ぶこと(1.はじ) だいた  
知らない機会 たくさん

季節を感じる、命を感じる、生き物の美しさ

生き物にふれる小学校プロジェクト!  
私たちはうげらになります。 国費をします!!  
定助成もします

をします！！

※①-③のいずれか1つを選択  
※④-⑥は複数選択可

**15班**  
**【15班】**

<①脱炭素、②生物多様性、③資源循環の社会の魅力や課題>

ワークショップで検討した、「脱炭素、生物多様性、資源循環の社会の魅力や課題」について、班でまとめた内容を1つ以上記入して下さい。

・魅力 高くない!!  
・課題 メッセージがにくい、わかりにくい

<魅力や課題への対応>

「脱炭素、生物多様性、資源循環の社会の魅力や課題」について、魅力を高めるたり課題を解決したりするために、各主体が行動すべきことを1つ以上記入して下さい。

①脱炭素、②生物多様性、③資源循環の社会を子ども達とつくる”ために、  
⑦私、⑧企業、⑨団体、⑩行政は 〇〇活

をします！！

※①-③のいずれか1つを選択  
※④-⑥は複数選択可

**18班**  
**【18班】**

<①脱炭素、②生物多様性、③資源循環の社会の魅力や課題>

ワークショップで検討した、「脱炭素、生物多様性、資源循環の社会の魅力や課題」について、班でまとめた内容を1つ以上記入して下さい。

課題について、知らず知らず (9%)

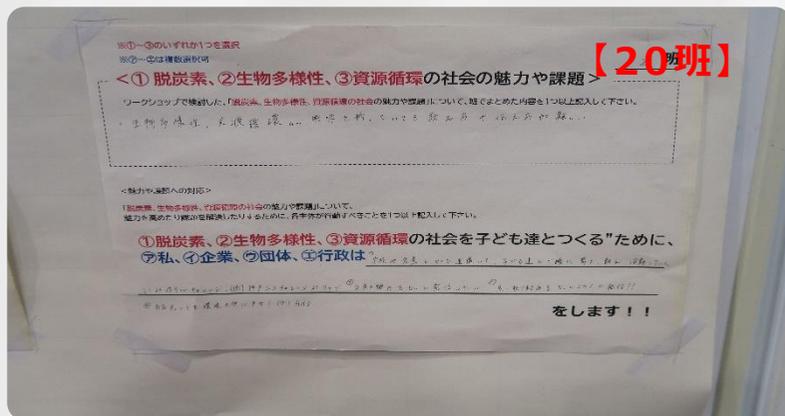
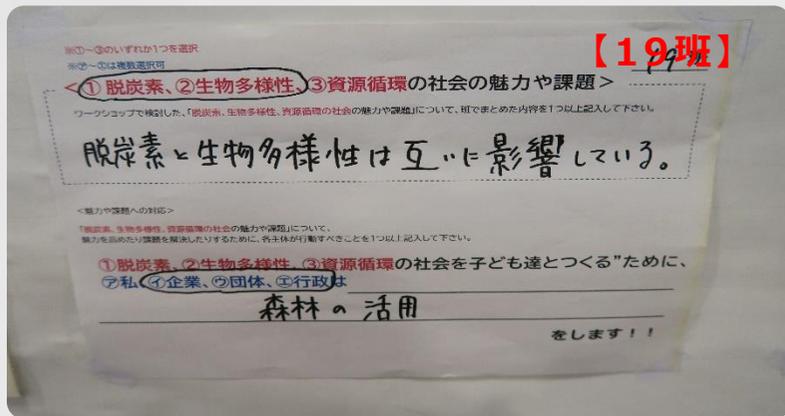
<魅力や課題への対応>

「脱炭素、生物多様性、資源循環の社会の魅力や課題」について、魅力を高めるたり課題を解決したりするために、各主体が行動すべきことを1つ以上記入して下さい。

①脱炭素、②生物多様性、③資源循環の社会を子ども達とつくる”ために、  
⑦私、⑧企業、⑨団体、⑩行政は 知る機会をつくる  
(学習会、イベント、楽しいながら体験できる機会)

をします！！

# 各班のまとめ用紙



## グループディスカッションの様子



## 代表10班による発表

1班	生物多様性について、外来種は駆除していかなければならないのは間違いない。しかし、ただ駆除するだけでなく肥料などに活用する。今後も外来種をどうしていくか、さらなる議論が必要。
2班	正しい情報を知ることがすべてにつながる。あとは応援することが大事。それぞれが活動していることをお互いに知り他者を応援することが全国、全世界に広がっていく。
5班	地球に有害な物質や外来種の大量発生及び極度の森林伐採、子供たちに正しい知識がないのが問題。具体的なアイデアとして生物多様性社会をこども達とつくるため、自然の魅力を感じるためのイベントを企業、団体、行政の協働で企画・開催する。
6班	生物多様性を広げていくためには、地域のアイデンティティとして植物などを保持していくため、自分と他の人など様々な人との関わりを大切にすることが課題。そのために企業、団体、行政関係すべての人々が老若男女関係なく内と外どちらも強化するために話し合いの場を作る。
9班	資源循環社会の魅力で、生産活動として竹割などを体験することや木材の利用があるが、循環されない食物や木材等はお金にならず廃棄されていることが課題。そこで、循環の輪に乗らない、お金にならない資源（イノシシやシカなど）をふるさと納税なども活用して購入できたらよい。
10班	兵庫県には自然がたくさんあるが、自然に係わる機会が少ない。そのため、生物多様性の社会を子どもたちとつくるために、自然体験ボランティア（シニア世代とのマッチング）という取組を通じて親世代を巻き込む。
12班	生物多様性について、生物は身近にたくさんいるが、最近の子供たちは触れる機会がないことが課題。それを解決していくために、専門的な知識を持った方に若い世代が知識を伝え、その若い世代が乳幼児に教える方法をとって、幼稚園などに出張動物園に出向く。
16班	生物多様性という言葉はあまり子供たちに理解されていない、知らない人が多いことが課題。そのため、団体や企業が、学校に出前授業に行ったり、身近な生物でメダカ等を一緒に育て池や川に放流する、またその池や川を掃除する等、生物多様性という言葉に関心をもってもらわなければならない。
17班	生物多様性を知る機会が少ないことが課題。学校の教育の一部としてすべての学校に生物の体験プログラムを実施する。
19班	脱炭素や生物多様性というのは互いに影響しており、どちらか一方だけの解決というのは難しい。森林に焦点をあて、同じ木なのに、輸入品の方が安く、日本の森林が全く活用されていないというのが問題であると考えた。日本の余った木や使用されていない木を燃料として活用し燃料として活用することで脱炭素と生物多様性に配慮した仕組みになる。

1班	しまだ かずお 島田 一生 / 教育委員会事務局 義務教育課 指導主事	11班	かめやま ひでお 亀山 秀郎 / 認定こども園七松幼稚園 園長
2班	いしばし こうすけ 石橋 孝輔 / 近畿大学附属豊岡高等学校	12班	きづき もとひろ 木築 基弘 / MIXIS
3班	はしもと よしのぶ 橋本 佳延 / 兵庫県立人と自然の博物館 主任研究員	13班	さいめん なおふみ 西面 尚史 / 教育委員会事務局 教職員人事課 主任指導主事
4班	ふじわら よしみつ 藤原 良光 / 兵庫県立生野高等学校 校長	14班	みつなり あさみ 光成 麻美 / 兵庫県立淡路景観園芸学校 インストラクター
5班	あずま ともこ 東 朋子 / NPO法人 コミュニティ事業支援ネット 理事長	15班	やなぎはら しんたろう 柳原 慎太郎 / 教育委員会事務局 高校教育課 指導主事
6班	いしまる きょうこ 石丸 京子 / 県立尼崎の森中央緑地 生物多様性チーフコーディネーター	16班	やまと まきみ 大和 牧美 / 認定NPO法人コミュニティ・サポートセンター神戸 まちづくりスポット神戸
7班	いまい ひろこ 今井 ひろこ / NPO法人 たじま海の学校 副代表	17班	わたなべ まり 渡辺 真理 / NPO法人 あまがさき環境オープンカレッジ副理事長
8班	ういけ さき 鵜池 紗希 / 兵庫県 環境部 自然鳥獣共生課	18班	はまだ えみこ 濱田 英美子 / 教育委員会事務局 社会教育課 主任指導主事兼社会教育主事
9班	おかで こうき 岡出 昂己 / 兵庫県 環境部 水大気課	19班	すが のりあき 菅 範昭 / 兵庫県環境部長
10班	おおもと しんや 大本 晋也 / 南あわじ市学ぶ楽しさ支援センター 所長	20班	にしたに ひろし 西谷 寛 / 海と空の約束プロジェクト 代表





兵庫は五国のため多様な環境で議論できる。みなさんの発表を聞いて、団体の高齢化が進んでメンバーが減ってきて大変であると聞く。そのため団体の活動を3世代へつなごうという意見があった。生物多様性は多くの班が課題としていた。「外へ出よう。」はその通りである。現場を見ずして生物多様性は語れない。資源循環。イノシシ、シカは希少種を食べる。外来種の議論はすべてが悪者ではない。ひとはくダンゴムシをテーマにしているが、それも外来種である。容認できる外来種もいる。次に、正しい情報を伝えること。本当にこれは正しいかわからない情報がネット上にかなり存在する。それを見分ける力が重要である。アフターコロナ、パンデミックを経験して、バーチャルとリアルの話があった。家の中にこもって議論することと、現場で見て議論することと、この経験をどう生かすことができるかが大事。ぜひ行動に移して頂きたいと思う。

## クロージング

脱炭素、生物多様性、資源循環は身近な課題。解決は地域からである。脱炭素、生物多様性、資源循環は独立したテーマではなくて絡み合っている課題だからこそ解決が難しいが、逆に一石三鳥を目指して兵庫県としてやっていきたいと考えている。日々活動されているテーマを持ち寄ってディスカッションできるというのは、非常に良い時間を持てたと思う。ぜひ今日得られたことを、明日からの活動に活かしていただけるとありがたい。



第5回ひょうごユースecoフォーラムに企画段階から参画し、若い力でフォーラムを盛り上げてくれた5名の学生企画委員を紹介します。

学生企画委員の真摯かつ積極的な取組がなければフォーラムの成功はありえませんでした。

この場を借りてお礼申し上げます。



大島 梨花  
織田 沙也加  
松本 夕芽  
森島 奈穂  
渡瀬 泰輝

武庫川女子大学  
武庫川女子大学  
兵庫県立大学大学院  
武庫川女子大学  
兵庫県立大学大学院



## 学生企画委員の感想

私は今回、初めて企画委員として参加させていただきましたが、打ち合わせの段階から企画委員の皆さんと当日のイメージを膨らませながら話し合いを進めることができ、主体的且つ対話的に構想を練ることができました。今回のecoフォーラムでは、幅広い年齢層の方々や、普段関わることの出来ない企業の方々と積極的に意見交換することができたため、様々な視点を持つことができたと同時に、より一層環境問題への問題意識や関心を高めることができました。また、一人一人が、私たちと常に隣り合わせの環境問題に対して真剣に向き合うことの大切さや、将来教員を目指している者として、これからの社会を担う子どもたちに積極的に現状や課題を伝えていく必要があるという責任感に気付かされる機会になりました。今回の経験で得たことを無駄にしないよう、これからも継続的に学びを深めていきたいと思います。この度は、学生企画委員という貴重な経験をさせていただき、ありがとうございました。

大島 梨花 武庫川女子大学

私はユースecoフォーラムに参加することで、SDGsについて深く学ぶ機会を得ることができました。ポスターセッションでは、それぞれ活動している分野からの視点で、SDGsとの関わり方を知ることができ、大変興味深いお話を聞かせて頂きました。また、グループディスカッションでは、議題に関して様々な方と交流することで、年代や地域、それぞれ行っている活動ごとに感じる課題点などを知ることができました。課題点から「私たちにできること」を考えていく中で、私の中で環境問題は漠然としたイメージだったが、身近な問題であるということに気づき、一人一人が行動に移して環境を変えていくことが大切であるとわかりました。また学生企画委員として総合司会をする中で、事前準備の大切さや大勢の方の前で話す難しさを学びました。ユースecoフォーラムに参加させて頂くことで、学生生活の中では味わうことのできない大変貴重な学びと体験をすることができました。

織田 沙也加 武庫川女子大学

学生企画委員のお話を頂いた際、新しい経験で不安な気持ちの中に楽しみという気持ちがありました。当日総合司会をしながらポスターセッションやグループディスカッションにも参加させて頂き、多くのことを学びました。特にグループディスカッションでは高校生や団体・企業の方々と生物多様性について議論を進め、多様な視点に触れることができました。今まで環境に対しての取り組みやテーマである脱炭素・生物多様性・資源循環についての知識が浅かったのですが、参加者の皆さんとの交流を通して、学びを深めることができました。しかしテーマである脱炭素・生物多様性・資源循環における現状と課題について知っている人がまだまだ少ないと私は考えます。今回得た知識を今後どのように人へと伝えていくのか、そして「持続可能な社会」を実現するために自分はどのような行動が取れるのか。まずは自分にできることから実践していきたいと感じました。

森島 奈穂 武庫川女子大学

編集発行

兵庫県環境部環境政策課 政策班（学習・活動支援担当）

〒650-8567 神戸市中央区下山手通5-10-1